

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和 4 年 10 月 19 日 (水) 13:00～16:30 20 日 (木) 9:00～16:00
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第 17 回全国市議会議長会研究フォーラム 主催：全国市議会議長会 会場：ホクト文化ホール（長野市）
3 参 加 者	寺島 芳枝 渡部 昇 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	「デジタルが開く地方議会の未来」
5 主な内容	① 基調講演 講師：富山和彦氏（経営共創基盤グループ会長） ② パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」 ③ 課題討議「地方議会のデジタル化の取組報告」 ④ 活用する文化財「真田十万石」城下町・松代地区（長野市）の視察
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 基調講演での DX 活用など新たな取り組みによる生産性向上、空中戦力も活用し、人手不足、高賃金時代を逆手にとって更なる成長を目指す（株）経営共創基盤グループ会長富山和彦氏の講演は、赤字で当たり前の公共交通を、徹底した AI による分析などにより、日本で一番稼いでいるバス会社に成長。是非、今一度学びたいと思った。 地方議会のデジタル化は、災害時や今の様な感染症の最中でも機能出来る議会対応への備えをしておく事は必然である。又、より多くの民意の吸収に活用していく時であることを再認識した。 【渡部昇】 平成 30 年間に進んだ破壊的イノベーションの波はコロナでさらに拡大・加速した。デジタル革命の拡大によるビジネスチャンスと生産性向上に向けて行かなくてはならない、日本経済復興の本丸はローカル経済圏、中堅・中小企業経済圏である。ローカル経済圏でなぜ当たり前のことが出来ないか、経営体の動機づけの問題、新陳代謝が進まない問題、地域経済密度の問題。このような根本課題をどう構築するかが重要である。 少子・超高齢・人口減少社会の課題にどのように問題意識をもって今後取り組んでいくかが大事、デジタル人災の不足、議会の DX への予算確保、制度改正の必要性など急激なデジタル化をどう乗り越えていくかが重要である。議会のデジタル化の目的は、あらゆる災害時にも議会機能を十分に発揮

し、住民とのコミュニケーションを確保する事が大事である。

【片山竜美】

＜基調講演から＞

デジタル化により、公共交通が利便性、効率性を向上させ、決して赤字にならない経営努力・工夫を紹介しながら、地道な改善改良の徹底の先に DX 的解決が自然に浮かび上がってくことを学んだ。また、公共交通は赤字で当たり前との概念から私たちも脱却しなければいけないと感じた。

＜パネルディスカッションから＞

・議会におけるデジタル化の現状と課題そしてこれからについて意見が交わされた。議会のデジタル化は喫緊の課題であり、早急に推進すべきものであるとの考え方で議論が進められていたが、その中で、「何のためにデジタル化をするのか」を議論し、理解して進めていくことが大切であると感じた。

・デジタル化が得意な方もいれば、苦手な方もみえるが、苦手な方がデジタル化の推進を「まずはやってみよう」という心で取り組んでいただきたいとの趣旨の発言があった。そして、やれるところから始めてみるのが大切でとても。全く同感である。

・「時代の先端に行くべき議会が、デジタル化に遅れをとってはならない」や「自治体と連携を図りながら、歩調を合わせて進めていくべき」との言葉が印象的であった。

・今後、育児、介護休暇等が充実されていく中、オンラインでの出席も選択肢となっていくのは時代の要請だとも思った。

＜課題討議から＞

・3市の実践報告がなされた。それぞれが、独自のやり方で、懸命にデジタル化を進めていた。そこで、共通して言えることは①議長が強力なリーダーシップをとっていること②各議員がそれに呼応して、会派を超えて互いに教えあいながら進めていること③事務局とも密に連携をとり、互いにアイデアだしあっていること④他市から学び、マネしてでも進めていること であると感じた。

＜視察から＞

・長野市の「松代城跡」「真田邸」「真田宝物館」「文武学校」を視察。学芸員の方による分かりやすい説明で、見識を深めることができた。

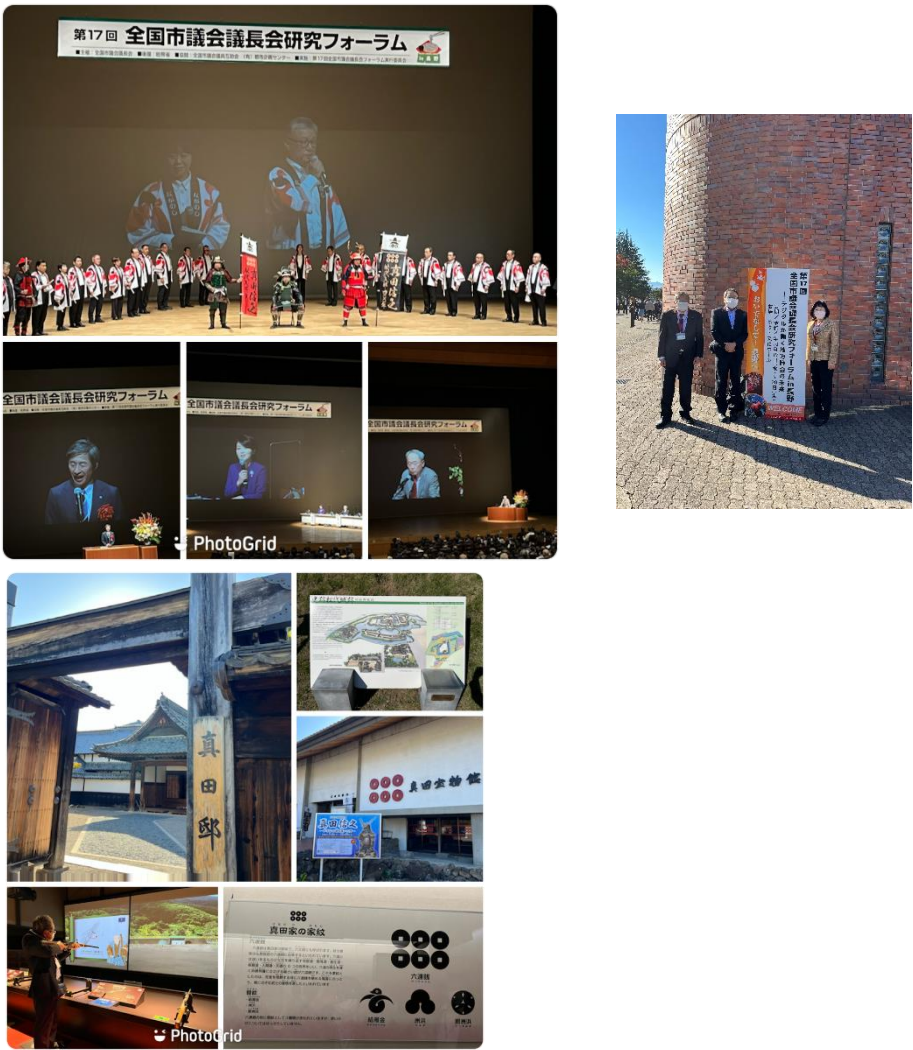
・真田信之が、上田地区からこの松代地区に移って今年でちょうど 400 年の佳節。また、私たちが見学した日が松代入部のまさにその日であることを知り、400 年の時を超え、なんだか不思議な縁を感じた。

・現在でも松代城の発掘が進んでいることや、文武学校が取り壊しの危機から住民の手で守られてきたことなどから、文化財を大切に、育む長野市民の心を感じた。また、有名な歴史的人物が存在する地域は強いなあと感じた。

＜提案事項＞

・多治見市での議会のデジタル化は必須であるとする。まずは、何のために行うのかをしっかりと理解する討議を始めてはどうか。

・例えば非公式な会議から ZOOMで行うなど、今から積極的に行って慣れることで、災害などの非常時に活用できるのではないかな。

	・対話集会でもオンラインでも参加できるようにすれば、会場に来られない方も参加できる。積極的に考えてはどうか。 ・今後、本庁舎建設にあたりデジタル化対応の設備を整えていくことを明記してはどうか。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。